

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	高松短期大学
設置者名	学校法人四国高松学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	保育学科	夜・通信	8		40	48	7	
	秘書科	夜・通信			41	49	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>本学ホームページにて公表しています。</p> <p>「実務経験のある教員等による授業科目」一覧（保育学科） https://www.takamatsu-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/03/2023-hoiku-zitsumu.pdf</p> <p>「実務経験のある教員等による授業科目」一覧（秘書科） https://www.takamatsu-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/03/2023-hisyo-zitsumu.pdf</p>
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	高松短期大学
設置者名	学校法人四国高松学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

事業計画書及び事業報告書に「1. 法人の概要」として、役員名簿を掲載し、事業報告書はホームページ (https://www.takamatsu-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/05/R4-businessreport.pdf) にて公開しています。
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	独立行政法人（顧問）	2020.6.27～ 2024.6.26	学校法人運営体制へのチェック機能
非常勤	大学名誉教授	2020.6.27～ 2024.6.26	学校法人運営体制へのチェック機能
非常勤	大学名誉教授	2020.6.27～ 2024.6.26	学校法人運営体制へのチェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	高松短期大学
設置者名	学校法人四国高松学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

・授業計画(シラバス)の作成過程

授業科目毎に授業計画(シラバス)を作成しています。

授業担当教員が、「シラバス作成要領」「授業計画(シラバス)【作成の注意事項】」「授業計画(シラバス)【作成例】」を基に、教務システム(Campus Square)により授業計画(シラバス)を作成し、本学ホームページ及び教務システム(Campus Square)で公開しています。

授業計画(シラバス)は、「授業の紹介」「到達目標」「授業計画」「授業時間外の学習」「成績の評価」「使用テキスト」「参考文献」の項目で構成しており、作成にあたっては、学生の視点に立ち、「シンプルで」「やさしく」「具体的に」という3つの観点を重視しています。

教育課程編成・実施の方針及び卒業認定・学位授与の方針との整合性を確実なものとするため、全学共通科目については、教務課職員が第1次チェックを行い、その後、学生支援部次長(教務担当)、副学長が第2次チェック(内容のチェック)を行っています。専門科目については、短期大学においては、教務課職員が第1次チェックを行い、その後、学科選出の教務委員及び各学科長が第2次チェック(内容のチェック)を行います。シラバスに不備が発見された場合は、チェックした者が当該担当教員に不備な箇所を明示し、修正を求めています。授業計画(シラバス)の修正を求められた教員は、指定の期日までに修正を完了し、授業計画(シラバス)を再提出した際に、チェックした者による再チェックを行っています。

・授業計画の作成・公表時期

授業計画(シラバス)は、12月から2月中旬にかけて、次年度授業担当教員が作成します。

2月下旬から3月下旬にかけて、授業担当教員が作成した授業計画(シラバス)のチェック及び修正を行った後に、基本的には、学年初めに間に合うように、本学ホームページ及び教務システム(Campus Square)にて授業計画(シラバス)の公表を行っています。

<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>本学ホームページにて公表しています。 授業科目・単位数及び卒業の要件等（保育学科）(https://www.takamatsu-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/03/2023-g-hoiku.pdf) 授業科目・単位数及び卒業の要件等（秘書科）(https://www.takamatsu-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/03/2023-g-secret.pdf) シラバス（保育学科）(https://www.takamatsu-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/03/hoiku.pdf) シラバス（秘書科）(https://www.takamatsu-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/03/hisyo.pdf) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準 (https://www.takamatsu-u.ac.jp/intro/info/)</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位授与又は履修認定の厳格かつ適正な実施状況 <p>各学生の学修成果に基づき、授業計画（シラバス）に記載した成績評価方法及び本学学生便覧にて公表している成績評価基準により、厳格かつ適正な単位認定を行っています。</p> <p>なお、授業計画（シラバス）作成時には、「成績の評価」の項目に、成績評価方法を試験、レポート、発表などの評価割合を%で示し、試験、レポート、発表等については、学生がイメージできるように、具体的かつ明確に記述するように授業担当教員へ周知しています。</p> 	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GPA等の客観的な指標の具体的な内容 <p>成績等の表示及び成績評価基準は、本学学生便覧及びホームページにて公表しています。</p> <p>また、個々の学生が学修の状況を把握する方法の一つとして、各学期の成績通知時に「累積GPA分布表」を配付しています。</p> 	

《成績等の表示及び成績評価基準》

評価等		G P	備考
秀	90点～100点	4	到達目標を十分に達成し、きわめて優秀な成績をおさめている
優	80点～ 89点	3	到達目標を十分に達成し、優秀な成績をおさめている
良	70点～ 79点	2	到達目標の基幹部分は達成している
可	60点～ 69点	1	到達目標の最低限の部分は達成している
不可	0点～ 59点	0	到達目標を達成していない
再試	試験を受けて不合格であったが、再試験を受けることができる (注1)	0	到達目標を達成していない
追試	試験を受けなかったが、追試験を受けることができる (注2)	対象外	—
認定	編入学等の単位認定科目で単位が認定されている	対象外	本学の学修水準に到達していると認められる

《G P A算出方式》

$$\frac{\text{秀 修得単位数} \times 4 + \text{優 修得単位数} \times 3 + \text{良 修得単位数} \times 2 + \text{可 修得単位数} \times 1}{\text{総履修単位数 (「不可」の単位数を含む)}}$$

- (注1) 再試験に合格した場合は、評価結果は「可」となり、G Pは「1」となります。
- (注2) 追試験を受験して合格した場合は、評価結果は「秀～可」となり、G Pは「4～1」となります。
- (注3) 不合格と評価されたのちに再履修した場合は、再履修科目のG P及び単位数と再履修前のG P及び単位数の両方がG P Aに算入されます。
- (注4) 授業科目の履修を中止した場合 (所定の出席回数を満たすことができなかった場合を含む。) には、成績評価は「不可」となり、G P及び単位数がG P Aに算入されます。したがって、履修登録の際には、シラバスの内容等をよく確認した上で、履修登録を行い、やむを得ず、履修登録を削除する場合は、履修登録 (変更) 期間内に行ってください。

・客観的な指標の適切な実施状況

学修成果に関して厳正な成績評価を行い、学生が自らの学業成績の状況を的確に把握して、適切な履修計画とそれに基づく効果的な学習に役立つように、G P A (Grade Point Average) 制度を導入しています。

G P及びG P Aの算出については、「成績等の表示及び成績評価基準」「G P A算出方式」のとおり、秀 (4)、優 (3)、良 (2)、可 (1) それぞれにG P (Grade Point) を付け、G P Aを算出しています。

客観的な指標の算出方法の公表方法

本学ホームページにて公表しています。
学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準 (<https://www.takamatsu-u.ac.jp/intro/info/>)

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

・卒業の認定に関する方針の具体的な内容

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）の3つのポリシーに基づき、「短大全体レベル」、「学科レベル」、「科目レベル」の3段階で、学修成果等を検証します。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）では、「建学の精神」と「教育理念」に基づいて定めた「教育目標」に基づき、全学共通科目や専門科目及びその他必要とする科目を体系的に学則に定める成績評価のもとに62単位以上を修得し、以下の資質や能力などを培うとともに、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、短期大学士の学位を授与します。

1. 豊かな人間性や主体的に生きる力
2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
3. 学科が示す専門的知識や技能及び実践的能力

○保育学科

「保育学科をめざす保育者像：子育て支援や福祉を通して、地域に積極的に貢献するとともに自己研鑽し続ける保育者」の具体的到達目標として掲げた以下の4つの資質能力を身に付けた学生に卒業を認め、短期大学士（保育学）の学位を授与します。

1. 子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観
2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

○秘書科

秘書科では、以下のような資質や能力を身に付けた学生に卒業を認め、短期大学士（秘書）の学位を授与します。

1. 豊かな人間性や社会人としての幅広い教養
2. 基礎的能力（高い倫理観、情報収集・分析力、問題発見・解決力、コミュニケーション能力等）
3. 職業人としての専門知識や技能

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）と併せて、本学学生便覧及びホームページにて公表しています。

また、入学年度、学科毎に「履修基準」を作成し、授業科目、単位・形式、配当年次、配当期、必修区分、卒業要件等を「別表」に纏め、「履修ガイド」に掲載して学生に周知しています。

卒業・修了の認定基準（必須・選択別）

学部・学科	必要単位数		
	必修科目	選択科目	計
保育学科	18	44	62
秘書科	14	48	62

・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況

卒業認定にあたっては、学則に定める成績評価のもとに62単位以上を修得していることを、「卒業認定会議資料」により、教務委員会での協議を経て、教授会にて協議を行い、認定しています。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

本学ホームページにて公表しています。
 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準 (<https://www.takamatsu-u.ac.jp/intro/info/>)
 学位授与の方針（保育学科） (<https://www.takamatsu-u.ac.jp/univ-jrcol/junior/nursery/>)
 学位授与の方針（秘書科） (<https://www.takamatsu-u.ac.jp/univ-jrcol/junior/secretary/>)
 授業科目・単位数及び卒業の要件等（保育学科） (<https://www.takamatsu-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/03/2023-g-hoiku.pdf>)
 授業科目・単位数及び卒業の要件等（秘書科） (<https://www.takamatsu-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/03/2023-g-secret.pdf>)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	高松短期大学
設置者名	学校法人四国高松学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.takamatsu-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/05/R4zaimu.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.takamatsu-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/05/R4zaimu.pdf
財産目録	https://www.takamatsu-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/05/R4zaimu.pdf
事業報告書	https://www.takamatsu-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/05/R4-businessreport.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.takamatsu-u.ac.jp/wp-content/uploads/2023/05/R4zaimu.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和5(2023)年度事業計画書 対象年度:令和5年度)
公表方法:冊子(令和5(2023)年度事業計画書)を配付。 お問い合わせ先:syomu@takamatsu-u.ac.jp
中長期計画(名称:高松大学・高松短期大学 中期目標・計画 対象年度:令和元年度～令和6年度)
公表方法:冊子(高松大学・高松短期大学 中期目標・計画)を配付。 お問い合わせ先:syomu@takamatsu-u.ac.jp

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.takamatsu-u.ac.jp/intro/jikoten/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.takamatsu-u.ac.jp/tandaihyoka/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 保育学科・秘書科
教育研究上の目的 (公表方法: https://www.takamatsu-u.ac.jp/intro/info/)
(概要) 建学の精神に基づき、教育基本法及び学校教育法に従い、豊かな教養と深い専門の学芸を修得させ、国家社会に貢献する有為の人材を育成し、あわせて地域文化の創造と発展に寄与することを目的としています。 保育学科は、保育士及び幼稚園教諭をはじめ、広く子育て支援に資する人材を育成することを教育研究上の目的としています。 秘書科は、職業人としての幅広い教養と高度なビジネスの専門知識・技能を有し、社会人としての基本的なマナーや品位を備え、周囲からの信頼を得て、第一線で活躍する人材を育成することを教育研究上の目的としています。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: https://www.takamatsu-u.ac.jp/intro/info/)
(概要) 本学では、「教育目標」に基づき、全学共通科目や専門科目及びその他必要とする科目を体系的に学則に定める成績評価のもとに 62 単位以上を修得し、以下の資質や能力などを培うとともに、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、短期大学士の学位を授与します。 1. 豊かな人間性や主体的に生きる力 2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力 3. 学科が示す専門的知識や技能及び実践的能力
○保育学科 「保育学科のめざす保育者像：子育て支援や福祉を通して、地域に積極的に貢献するとともに自己研鑽し続ける保育者」の具体的到達目標として掲げた以下の 4 つの資質能力を身に付けた学生に卒業を認め、短期大学士(保育学)の学位を授与します。 1. 子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観 2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性 3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力 4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力
○秘書科 秘書科では、以下のような資質や能力を身に付けた学生に卒業を認め、短期大学士(秘書)の学位を授与します。 1. 豊かな人間性と、社会人としての幅広い教養や国際感覚 2. 基礎的能力(高い倫理観、情報収集・分析力、問題発見・解決力、コミュニケーション能力等) 3. 職業人としての専門知識や技能 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)は、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)と併せて、本学学生便覧及びホームページにて公表しています。 また、入学年度、学科毎に「履修基準」を作成し、授業科目、単位・形式、配当年次、配当期、必修区分、卒業要件等を「別表」に纏め、「履修ガイド」に掲載して学生に周知しています。

卒業・修了の認定基準（必須・選択別）

学部・学科	必要単位数		
	必修科目	選択科目	計
保育学科	18	44	62
秘書科	14	48	62

・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況

卒業認定にあたっては、学則に定める成績評価のもとに62単位以上を修得していることを、「卒業認定会議資料」により、教務委員会での協議を経て、教授会にて協議を行い、認定しています。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<https://www.takamatsu-u.ac.jp/intro/info/>）

（概要）

「卒業認定・学位授与の方針」に基づき、全学共通科目や専門科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、効果的な授業を実施します。

1. 全学共通科目については、豊かな人間性を培い、幅広い教養を養うとともに、基礎学力を強化し、学科の専門科目との接続を図るため、多様な学習機会を提供します。
2. 専門科目については、専門分野を深化させ、学問探求の方法を身に付け、課題に気づき、解決する力の育成を図るため、体系的な教育課程を編成します。
3. その他必要とする科目については、多様な免許や資格の取得を図るため、必要に応じて開設します。
4. 授業については、講義、演習、実験、実習もしくは実技を適切に組み合わせ、多様な指導方法により、効果的に実施します。
5. 学修成果については、個々の学生の学修状況を様々な直接的・間接的方法により把握し、各科目のシラバスに定めるところに基づいて測定し、多面的に評価します。

○保育学科

卒業認定・学位授与の方針に掲げた4つの資質能力を身に付けるとともに、広く子育て支援に資する人材を育成するために、体系的なカリキュラムを編成しています。

1. 保育士資格及び幼稚園教諭二種免許状取得のための課程を開設し、「保育学と教育学」「心理学と社会福祉」「保健学と栄養学」「保育・教育の内容と方法」「実習」「総合的演習」の科目群及び全学共通科目を系統的構造的に配列することにより、専門的知識や技能の修得のみならず、主体的に取り組み、課題に気づき、解決する力を育成します。
2. 研究室制度を基盤とした研究室活動をとおして、学生と教員が豊かな対話を実現し、周囲と協調しながら取り組む態度を養うとともに、主体性や判断力、表現力を高めます。
3. 卒業認定・学位授与の方針に掲げられた「保育学科のめざす保育者像：子育て支援や福祉を通じて、地域に積極的に貢献するとともに自己研鑽し続ける保育者」の具体的到達目標との関連性が明確に示されたシラバスの定めるところに基づいて学修成果を測定し、評価します。

○秘書科

職業人、社会人として必要な能力や態度を育成するために、全学共通科目や専門科目を体系的に編成し、効果的な授業を実施します。

1. 全学共通科目については、豊かな人間性を培い、幅広い教養を養うとともに、基礎学力を強化し、学科の専門科目との接続をはかるため、多様な学習機会を提供します。
2. 専門科目については、ビジネスの基本知識やマナーを身に付けるための共通専門科目と職業人としての高度な専門知識や技能を身に付けるためのコース別専門科目をバランスよく配置し、理論と実践の体系的な教育課程を編成します。
3. 個々の学生の将来設計に沿った専門知識を身に付けるために、
 - ①簿記やパソコンなどのビジネススキルと、接客や電話対応などの実践的なビジネスマナーを兼ね備え、将来、銀行や一般企業の事務職として活躍できる人材を育成する「ビジネス秘書コース」
 - ②医学・薬学の専門知識と、診療報酬請求事務や医事コンピュータの操作方法などの医療事務に関する実務能力を兼ね備え、将来、医療事務スタッフとして活躍できる人材を育成する「医療事務コース」
 - ③様々なビジネススキルや語学力・プレゼンテーション能力と、インバウンドにも対応できる能力を兼ね備え、将来、一般企業の事務職員・受付、ショールーム・ホテル・グランドスタッフ、販売担当者として活躍できる人材を育成する「グローバルビジネスコース」
 - ④一般事務員、公務員などで情報分野（情報セキュリティ等を含む）のエキスパート的存在となるために、コミュニケーション能力と人間力とITスキルを持つ人材を養成する「ヒューマンITコース」
 の4つのコースを設置し、各コースの目標を達成するための科目を設け、体系的な教育課程を編成します。
4. 各コースに目標とする検定を設定し、1年次前期から集中的な指導を行い、就職活動を見据え、1年次の終わりまでに多くの検定を取得し、実践的な専門知識や技能を身に付けます。また、コース担当教員による少人数の研究室制度を設け、1年次から演習を重ね人間性や実践力を高め、さらには、2年次には多様な実習経験を積んで就職に結び付けます。
5. ボランティア活動をはじめ多様な社会貢献活動を実施し、地域との連携・交流を通して学生の人間的成長を支援します。
6. 学修成果については、個々の学生の学修状況を様々な直接的・間接的方法により把握し、各科目のシラバスに定めるところに基づいて測定し、多面的に評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.takamatsu-u.ac.jp/intro/info/>）

（概要）

本学が定めた「建学の精神」や「教育理念」「教育目標」に共感し、自らの可能性に向かって、失敗を恐れることなく何事にも果敢に挑戦し、日々努力を続けることができる学生の入学を期待しています。入学者には以下のことを求めます。

1. 高等学校等の教育課程を幅広く修得し、基礎的・基本的事項を身に付けている。
2. 高等学校等における各教科等の学習をとおして、様々な人々とコミュニケーションを図るための基本的な態度・姿勢を身に付けている。
3. 様々な課題について自ら気づき、その解決を図ろうとする主体性と意欲がある。
4. 豊かな心を持ち、周囲の人と協調を図りながら物事に取り組もうとする態度・姿勢を身に付けている。
5. 学びたい学科で身に付ける知識や経験を、実社会において活かしていきたいという目的意識と意欲がある。

○保育学科

「保育学科のめざす保育者像：子育て支援や福祉を通じて、地域に積極的に貢献するとともに自己研鑽し続ける保育者」に共感し、以下のような素養を備えた学生を求めています。

1. 基礎的な学力を身に付けており、保育に関する専門的知識と技能の修得に高い意欲を持っている。
2. 保育における様々な課題に気づき、その解決のために主体性、協調性を持って取り組む意欲がある。
3. 子どもを愛し、誠実で常に相手の立場に立って考え行動できる。
4. 適切な言葉遣いや節度ある行動ができる。
5. 礼儀正しく、明るい態度でコミュニケーションをとることができる。
6. 人として成長するために常に努力することができる。

○秘書科

職業人、社会人として必要な能力や態度を育成するために、入学者には以下のことを求めます。

1. 高等学校等における基礎的な知識、特に国語・数学・英語などの基礎的な学力を身に付けている。
2. 同年代の人や教職員、社会人など、様々な人々とコミュニケーションをとることができる。
3. 様々な課題について自ら気づき、よりよく解決するために挑戦することができる。
4. 目標に向かって前向きに努力することができ、同年代の人や教職員、社会人など、様々な人々と協力して責任を持って物事に取り組むことができる。
5. ビジネス秘書や医療事務、グローバルビジネスに関する専門知識や実務技能を身に付けたいという目標がある。
6. 社会人としての基本的なマナーや品位を身に付けたいという目標がある。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.takamatsu-u.ac.jp/intro/info/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1人	－					1人
保育学科	－	3人	2人	3人	1人	0人	9人
秘書科	－	5人	1人	2人	0人	0人	8人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員				計	
1人		42人				43人	
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：「専任教員一覧」としてホームページ （ https://www.takamatsu-u.ac.jp/intro/info/ ）からスクロールして高松短期大学学科ごとに掲載					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

令和4年度は、全教員を対象に「受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り」をテーマに講師を招き、対面にて研修会を実施した。研修は、授業における「楽しさ」とは具体的にどのようなものなのかについて講義やワークを通じて考える前半と、現状の授業に「楽しさ」を取り入れる方法を授業の各場面において検討する後半の2部構成であった。この研修会では、「楽しさ」という観点から授業をよりよくするポイントを見出だせることを目指した。
欠席者はオンデマンドで後日視聴し、実施（視聴）後にアンケートの提出を求めた。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
保育学科	80人	39人	48.8%	160人	91人	56.9%	人	人
秘書科	70人	39人	55.7%	140人	82人	58.6%	人	人
合計	150人	78人	52.0%	300人	173人	57.7%	人	人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
保育学科	56人 (100%)	1人 (1.8%)	54人 (96.4%)	1人 (1.8%)
秘書科	60人 (100%)	2人 (3.3%)	54人 (90.0%)	4人 (6.7%)
合計	116人 (100%)	3人 (2.6%)	108人 (93.1%)	5人 (4.3%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 【保育学科】高松市市立保育所、あおば幼稚園、高松幼稚園、認定こども園高松東幼稚園、カナン子育てプラザ21、幼保連携型認定こども園新田幼稚園、若葉保育園、氷上保育所、讃岐学園など【秘書科】高松市、香川県農業協同組合、高松信用金庫、大阪厚生信用金庫、穴吹興産、JR 四国ホテルズ、夢葉房たから、スズキ自販香川、キナシ大林病院、香川県済生会病院、おさか脳神経外科病院、高松ハートクリニックなど

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
保育学科	64人 (100%)	56人 (87.5%)	0人 (0.0%)	7人 (10.9%)	1人 (1.6%)
秘書科	63人 (100%)	60人 (95.2%)	0人 (0.0%)	2人 (3.2%)	1人 (1.6%)
合計	127人 (100%)	116人 (91.3%)	0人 (0.0%)	9人 (7.1%)	2人 (1.6%)

(備考)

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

入学年度、学科毎に「履修基準」を作成し、授業科目、単位・形式、配当年次、配当期、必修区分、卒業要件等を「別表」に纏め、「履修ガイド」に掲載して学生に周知しています。

毎年度の「履修ガイド」は、新年度の登学日に時間割表等の関係書類と共に学生へ配付し、オリエンテーションにて、修学に関する説明や履修指導を行っています。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

・卒業の認定に関する方針の具体的な内容

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）の3つのポリシーに基づき、「短大全体レベル」、「学科レベル」、「科目レベル」の3段階で、学修成果等を検証します。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）では、「建学の精神」と「教育理念」に基づいて定めた「教育目標」に基づき、全学共通科目や専門科目及びその他必要とする科目を体系的に学則に定める成績評価のもとに62単位以上を修得し、以下の資質や能力などを培うとともに、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、短期大学士の学位を授与します。

1. 豊かな人間性や主体的に生きる力
2. 課題に気づいて解決する力や社会に貢献できる力
3. 学科が示す専門的知識や技能及び実践的能力

○保育学科

「保育学科のめざす保育者像：子育て支援や福祉を通して、地域に積極的に貢献するとともに自己研鑽し続ける保育者」の具体的到達目標として掲げた以下の4つの資質能力を身に付けた学生に卒業を認め、短期大学士（保育学）の学位を授与します。

1. 子どもの命と成長に対し誠実に向き合う使命感と倫理観
2. 自分に厳しく、子どもと保護者に温かく接することのできる豊かな人間性
3. 高度な専門的知識と的確な洞察力や判断力
4. 多彩な保育活動を創出する基礎技能を基盤とした保育実践力

○秘書科

秘書科では、以下のような資質や能力を身に付けた学生に卒業を認め、短期大学士（秘書）の学位を授与します。

1. 豊かな人間性や社会人としての幅広い教養や国際感覚
2. 基礎的能力（高い倫理観、情報収集・分析力、問題発見・解決力、コミュニケーション能力等）
3. 職業人としての専門知識や技能

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）と併せて、本学学生便覧及びホームページにて公表しています。

また、入学年度、学科毎に「履修基準」を作成し、授業科目、単位・形式、配当年次、配当期、必修区分、卒業要件等を「別表」に纏め、「履修ガイド」に掲載して学

生に周知しています。

卒業・修了の認定基準（必須・選択別）

学部・学科	必要単位数		
	必修科目	選択科目	計
保育学科	18	44	62
秘書科	14	48	62

・卒業の認定に関する方針の適切な実施状況

卒業認定にあたっては、学則に定める成績評価のもとに62単位以上を修得していることを、「卒業認定会議資料」により、教務委員会での協議を経て、教授会にて協議を行い、認定しています。

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	保育学科	62 単位	㊦・無	45 単位
	秘書科	62 単位	㊦・無	46 単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.takamatsu-u.ac.jp/intro/info/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
	保育学科	460,000 円 (令和4年度以前入学生) 530,000 円 (令和5年度入学生)	200,000 円	345,000 円	施設設備維持費
	秘書科	460,000 円 (令和4年度以前入学生) 530,000 円 (令和5年度入学生)	200,000 円	345,000 円	施設設備維持費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修学に係る支援として、毎年度の「学生便覧」「履修ガイド」を作成し、新年度の登学日に関係書類と共に学生へ配付しています。4月、9月の授業開始前のオリエンテーションでは、修学に関する説明や履修指導を行うと共に、履修登録期間中には、別途、履修指導の日程を設けるなど、修学に係る支援に取り組んでいます。 ・本学ホームページ「キャンパスライフ」の「授業」においても、「授業時間」「休講・補講・授業時間割等の変更」「Webによる情報公開」「欠席」「各種の単位認定」「履修登録」「卒業研究」「警報発表時の授業及び試験について」「学外実習」の情報を掲載しています。 ・教務システム「Campus Square」により、「履修登録・登録状況照会」「シラバス参照」「休講補講参照」「履修成績照会」「単位修得状況照会」のサービスを提供し、パソコン、スマートフォンによる学外からのアクセスを可能にしています。 ・学生便覧には、教務課の窓口案内として、「履修・成績」「試験」「授業」「在学・卒業見込・学業成績証明書・健康診断証明書・学割等の発行」「休学・退学・復学等の学籍異動」「海外留学」「免許・資格の取得」「教育実習・保育実習・インターンシップ」などについての相談が可能であることを記載し、都度、相談に応じています。 ・本学では、障害のある学生からの修学に必要な支援の要請を申し出により、「高松大学・高松短期大学障害のある学生支援規程」に基づき、本学における、障害のある学生への支援体制を構築し、法令に基づく合理的配慮の提供を検討し、次の各項目に示す具体的支援を実施するよう努めています。 ・本学における教育の充実を目的として、優秀な学生に教育補助業務を行わせ、これに対する給与支給により、当該学生に対する教育力向上の機会と経済的支援を提供するため、「スチューデント・アシスタント制度」を導入しています。 ・日本学生支援機構の給付型奨学金の採用候補者である入学者に対しては、採用候補者である旨を書類にて申し出ることにより、入学後に給付区分が確定するまで入学金および前期の授業料の納入を猶予しています。そして給付区分が正式に確定したのち、納入期限を定めて、猶予していた入学金および前期分の授業料を納入してもらう取り組みを実施しています。
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求職者登録に基づく求人のあっせんや求人開拓をしています。 ・セミナー、模擬試験、対策講座、企業説明会など、就職活動を支援するための就職ガイダンスを実施しています。 ・就職活動報告書、求人票、企業等のパンフレット、合同説明会の案内などを就職資料室に配架しています。 ・在学中に受験できる検定試験やキャリアアップのための課外講座を随時実施しています。
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医務室では定期健康診断に加え、月1回の校医による健康相談を実施し、必要に応じて適切な医療機関を紹介しています。 ・学生相談室を設置し、学生生活の相談に関すること、メンタルヘルスに関すること、ハラスメントに関すること、障がいのある学生の支援に関すること等、学生

生活全般の支援を目的として相談窓口を設けています。

- ・特に修学上の特別な配慮を必要とする学生については、専門の学生相談室員を配置し、規程に基づき具体的な合理的配慮の提供を行っています。また、関係機関と連携し、低学年次から卒業後の自立に向けた進路選択等の指導を行っています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.takamatsu-u.ac.jp/intro/info/>

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F237310110360
学校名	高松短期大学
設置者名	学校法人四国高松学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		45人	45人	46人
内訳	第Ⅰ区分	29人	32人	
	第Ⅱ区分	－	－	
	第Ⅲ区分	－	－	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				46人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定		0人	—
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)		0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況		0人	—
「警告」の区分に連続して該当		0人	—
計		0人	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

年間	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	前半期	後半期	
		0人	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	—		0人

G P A等が下位 4 分の 1		—	—
出席率が 8 割以下その他 学修意欲が低い状況		—	—
計		—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。